

# 江戸の坂道散策

## 権之助坂 (目黒区)



1943年、広島県生まれ。早稲田大学政経学部新聞学科卒業。報知新聞社を経て講談社に入社。「ヤングマガジン」編集長、第3編集局長、取締役、常務取締役を務めた。この数十年、東京の坂道を積極的に歩き、エッセイや講演などで坂道ブームの火付け役に。著書に「江戸の坂——東京・歴史散歩ガイド」(朝日新聞出版)、「江戸と東京の坂」(日本芸文社)がある。

### 山野 勝 Yamano Masaru 坂道研究家

目黒区下目黒一丁目1と目黒一丁目4の間に大きく湾曲しながら、目黒川に架かる目黒新橋に向かって下る坂がある。JR目黒駅の南側を走る目黒通りの坂だが、その名を権之助坂(写真の左側)という。下る途中で、昭和43年(1968)に開通したバイパスと合流する。江戸時代、この坂の南にある行人坂(あんざんざか)があまりにも急峻だったので、これを回避するために造られた坂で、別名を新坂(しんざか)という。目黒新橋が延宝年間(1673~81)には、現在の位置にあったことが確認されているので、この坂道もそのころに開通していたことになる。

坂名の由来には諸説ある。①中目黒村田道(むらたみち)の名主・菅沼権之助が、村人のために年貢米の軽減を幕府に訴えたが、これが罪に問われて処刑されることになった。馬に乗せられて刑場に向かう途中、役人から「思い残すことはないか」と聞かれ、権之助は「最期にわが家を見たい」と答えた。役人は新坂の坂上で馬を止めた。ここから田道のわが家が見渡せたのだ。それから、村人はこの坂を権之助坂と呼ぶようになったとい

う。②権之助が幕府の許可を得ず、この坂を造成したのが罪に問われたという説もある。目黒三丁目3-5にある「十七が坂」上の庚申塔(明暦3年・1657年建立)に「権之助」の名があり、これが菅沼権之助ではないかといわれる。また、中目黒五丁目6-14の「西ノ山墓地」に菅沼権之助の墓があるが、没年が元禄10年(1697)なので、①説をとるなら、この権之助に該当するかもしれない。



「十七が坂」の坂上にある庚申塔。

### 茶屋 一眼 公堀

本文中に出てきた「十七が坂」(目黒三丁目5と18の間を北西に上る急坂)の坂名由来には諸説ある。①坂上にある庚申塔に「権之助」など17人の名が刻まれているからとか、②「十七」とは若者のことを指し、一般の人々はこの急坂を避けて遠回りしたが、元氣な若者だけがこの急坂を利用したからとか、③この辺りに17軒からなる集落があったからとかの説がある。静かな佇まいに江戸の風情がある。

権之助坂アクセス ▶ JR 東急目黒線の目黒駅を出てすぐの、目黒通りを西へ向かって下っていく。